

ノンフィクション性体験レポート【体験版】

Vol 1.

【被験者】

Name: 亜由実さん

Job: OL

age: 24

体験内容：おねショタ性教育体験

目次

※体験版なのでP.5までしかありません

表紙	・・・・・・・・・・P.1
目次	・・・・・・・・・・P.2
インタビューパート①	・・・・・・・・・・P.3
体験告白パート：勃起して海パンが穿けない甥っ子のおちんちんを…	・・・・・・・・・・P.4～P.7
インタビューパート②	・・・・・・・・・・P.8
体験告白パート：今度はお風呂場でもっと色んな事を教えてあげました	・・・・・・・・・・P.9～P.12
インタビューパート③	・・・・・・・・・・P.13
体験告白パート：そして初めても頂いちゃいました☆	・・・・・・・・・・P.14～P.17
インタビューパート：エピローグ	・・・・・・・・・・P.18

インタビューパート①

Daishirou（以下：D）：どうも、初めまして

亜由実(仮名)：はい、初めまして。

D：いきなりですけど、おっぱい大きいですねえ何カップですか？

亜由実：E カップです♪

D：思ったより小さなあ。おっと失礼しました

亜由実：いえいえ（笑）

D：早速質問なんですけど、お仕事は何をされているんですか？

亜由実：不動産会社で事務の仕事をしてながら副業でホテヘル嬢をしています。

本業の方は大学を卒業してからだから 1 年ちょっとです。

ホテヘルの方が大学 3 年からだからもうすぐ 2、3 年位になりますね

D：おお！聞いてないのに勤続年数まで！ちなみに経験人数はプライベートで何人ですか？

亜由実：ええ～（笑）私、私生活だと純情だから少ないんですよ。う～ん確か 20 人ちょっとくらいだと思います

D：そ、それで少ないんですか!?

亜由実：ええ～多いんですか！私の周りの娘はみんな私の倍くらいですよ

D：ハハハ（汗）ちなみに仕事も入れたら何人くらいですか？

亜由実：お店には内緒にしといてくださいね

D：勿論です。だってホテヘルで本番は違法ですから。

亜由実：ありがとうございます。でも、週 2,3 回位しか出勤しないし、あんまりしないんですけど…

D：う、うんで何人？

亜由実：20 人位です。本当はダメだっていうのは分かってるんですけど

私って母性本能が強いから童貞のお客さんとかが来たら

ついつい奪って上げたくなっちゃうんですよ

D：そうなんだ。実はオレ童貞なんだ！

亜由実：“素人”童貞ですよ。しかもプロの経験は 70 人オーバー。

〇〇さん（紹介者の方）からそう聞いてますよ。そんなのはダメです。

しかも私より年上は童貞でも奪ってあげる対象外です

D：う～ん。残念。で、今日告白してもらうインモラルな実体験はなに？
童貞奪っちゃった系の話？

亜由実：はい、そうです。ただその相手は凄いですよ。私の甥っ子です。

ちなみに奪ったのは 2016 年の 8 月頭です♪

D：マ、マジ！今が 2016 年の盆だから本当につい最近じゃん。詳しく教えて！

亜由実：はい、分かりました♪

体験告白パート：勃起して海パンが穿けない甥っ子のおちんちんを…

お姉ちゃんが近所の商店街の福引で2人1組のグアム旅行を当てちゃったんですよ。
で、旦那さんも有給とって久しぶりに夫婦水入らずで旅行しようって話になったんです。
それで甥っ子の公太郎君をどうしようって話になって
最初はウチの実家に預ける予定だったんですけど、
お父さんは体調が悪くてお母さんはその看護で忙しい。
だから私の所に預けるって話になったんです。正直、困りました。
夜のお仕事にはいけなくなるし、家に彼氏を呼ぶことも出来ないし、
でもお小遣いをくれるっていうから引き受けちゃいました。
それでお姉ちゃんの家を迎えに行って久しぶりに公太郎君に会ったんですけど
超可愛らしいんですよ。背は伸びて大人に近づいているけど
顔は女の子みたいにキュートで思わず守ってあげたくなっちゃいました。
で、そのまま私のマンションまで連れて帰ってる途中に
お菓子でも買ってあげようかと思ってコンビニに寄ったんです。
「ねえ、公太郎君どれにする？1個だけ好きなの選んでいいよ」
「え〜2個買ってよ」
「ダメ！1個だけ」
「おばちゃんのケチ！」
「お、おばちゃん…」
「だっておばちゃんじゃん」
外見とは裏腹に性格はホントに生意気になってました。
昔は「お姉ちゃ〜ん」って言いながら
私の後をヨチヨチ付いて来たのにおばちゃんだなんて…
その日はそのまま家に連れて帰ってご飯を食べてお風呂に入って寝て終了です。
え？あっさりし過ぎてる？だってその日は他に何も無かったんですもん。
…だって
「おばちゃん晩飯、コンビニ弁当かよ。ちゃんと自炊しろよ」
「おばちゃんが布団で俺はソファァーかよ。俺は客だぞ、ひでえな」
とか言われ続けたなんて言いたくないですもん。…あ、言っちゃった。
次の日はムシムシしてたんでプールに行きたくなったんです。
だから公太郎君も連れて近くの市民プールに行きました。
で、同じ更衣室で一緒に着替えてたんですけど…
「おばちゃん！チンコが変な事になってる！どうしよう？」
そう慌てふためき言ってきたんですよ。
病気だったらどうしようかと思ってしゃがんで見てみたんです。

すると何と勃起してたんですよ！まだ先っぽの皮も剥けてなくて毛も生えてないんですよ。
サイズも大人と比べたら全然小さいです。

でもお腹にくっ付きそうなくらいピーンとビン立ちしてました！

ホテヘルのバイトで色んなチンチンを見てきましたが、
あんなに可愛いチンチンは初めてだったんでしばらく見とれちゃいました♪

「公太郎君どうしてこうなっちゃったの？」

「——おばちゃんが着替えるところを見てたらこうなった」
嬉しかったです。口ではおばちゃん、おばちゃん言いながら
私をそういう目で見てるって証拠ですからー。

でも、ちょっと意地悪してやる事にしました。

「うーん。公太郎君、これは死ぬかもしれない病気だよ」

「そ、そんなおばちゃんどうすれば良いの？死にたくないよう」

「これはねスケベな事を考えるとになってしまう病気なの。

アタシを見てエッチな事考えたんだね。最低」

「そんな事考えてないよ！」

「私だったら治せるよ。でも本当の事を言わないと治してあげない。

あと、私の事はおばちゃんじゃなくてお姉ちゃんと呼びなさい」

「うー…エ、エッチな事は考えてないよ。

でもおばちゃんの裸を見てると胸がキュンとなってドキドキして…」

ムラムラ来るって感覚は今まで経験したことが無いんですね。まあ良しです。でも…

「公太郎君。私の事は…」

「ご、ごめんなさい、お姉ちゃん！」

「よし。では治療をしてあげますね」

そう言ってまずはチンチンの皮を剥きました。

包茎の人の亀頭って皮で護られてるから宝石みたいにキレイなんですよ！

でも、あれは中でも特別でした。オナニーすら一度もしたこと無いんで

ピンク色にキラキラ光ってて、更に小さくて、新鮮な美味しい果物みたいでした。

だから目を離すことが出来ずにしばらくずっと見つめ続けちゃいました♪

「おばちゃん痛いよう。早く治しよう」

公太郎君ったら涙目になって顔を真っ赤にしちゃってて超可愛いんですよ。

「ごめん、ごめん」

早速、私は公太郎君の可愛すぎるチンチンを優しく握って上下にしごき始めました。

「あっあーお姉ちゃんなんか変だよ」

「もう大きな声出したら周りに迷惑でしょ。静かにしないと治してあげないわよ」

「ご、ごめんなさい」

初めての経験だから公太郎君も耐えれなかったんでしょうね。